

# 読売歌壇

## 小池 光選

尊敬する人からの手紙返信をベルト・モリゾの絵葉書で書く  
千葉市 佐藤 綾子

【評】尊敬する人、というのが端的でよい。こつこつとやる人も少なくなってきたが、手紙をもらって返信する。大事な絵葉書を使って。ベルト・モリゾは印象派の女流画家。  
東京部 尾崎 永治

半世紀前に安産祈願せし水天宮をひとり訪ふ

【評】はじめての我が子か。水天宮に安産祈願した。それから五十年、そのとき生まれた我が子も五十歳になった。きょうは「ひとり」で来たところか重い。  
宇治市 清原 茂樹

履歴書の入りしゆえかや厚き封書届きてわれは採られず

【評】採用試験。履歴書も返送されたのか封書が分厚い。開封しなくても結果がわかる。そのうち朗報あり、がんばって下さい。  
横濱市 山本喜太郎

右折違反の罰金控でてきたり癌の告知を受けし帰りの

教室の子らの歌声きながら花壇は眠る春が来るまで  
名古屋市 山本 望

危なげに五歳の姉はスプーンで五月月の妹に粥を与える  
つくば市 岩瀬 悦子

老いてゆく犬に何度も頼ずりすおまえの匂い忘れないため  
奥州市 久慈田美子

いそいそと実家へと向かう十六の母がみえくる今日は載入り  
船橋市 山崎三千子

話してる途中に私を思い出して懐かしい目になりゆく友は  
仙台市 小野寺寿子

上陸の米兵刺すと竹槍の穂古励みし亡き母想う  
日向市 終 俊一郎

## 栗木 京子選

表札の漢字読みつつ散歩する我と腕組む帰国せし男子  
堺市 近江 貞子

【評】海外から久々に戻った子であろう。漢字が新鮮に感じられるのだ。表札の漢字を読みながら歩く姿に臨場感があふれている。作者と少年との楽しいデートが目に見え、新年の朝日にかざし手の甲に見えたるしみも新しき仲間  
柏原市 田辺恵美子

【評】「手のひらを太陽に」という曲では手のひらに血潮を感じて元気をもらうが、作者は手の甲にしみを発見。しかし、しみさえも大らかに受けとめている。結句が力強い。

【評】病室に戻るといってそう離れにくくなると思つた作者。だが翌朝、奥様は逝去なさつたという。「戻りかけたが」が哀切である。日向ぼこ室町好きの妹と江戸好きの我がおしゃべり続く  
東京都 浜田 綾子

遠くから名前を呼ばれ挨拶を返す幸せ一日を生かす  
埼玉県 吉野利美子

並び待つ「出町ふたば」の行列の奥に餅つく音の休まず  
横濱市 杉山 太郎

一月にはや黄砂とび甲羅干す亀を見るなり川沿ひゆけば  
さいたま市 小平 英治

無念とは斯くの如きか晩酌を甘酒にして命を惜しむ  
山口県 松田 修三

血の滲みほど練習しているわけじゃないあかきれの指白鍵汚す  
静岡市 篠田 淳美

小振りなる急須は老いの手に馴染み仏間の夫との朝が始まる  
旭市 服部 恒子

## 俵 万智選

マジックショーの美女の心地に横たわる輪切りにされる画像診断  
長野市 原田りえ子

【評】CTやMRI、PETといった検査を経験したことのある人なら、膝を打ちたくなる比喩だろう。そして、憂鬱な検査も、マジックショーの美女役と思えば、少し心が弾むかもしれない。言葉のマジックである。  
高崎市 長友 聖次

【評】「ひばりの比喩を上」の句だけで終わらせなかつたところが工夫だ。視覚に訴える噴水を、聴覚でたとえたところも面白い。

【評】ミス指摘してくるAIは、便利ではあるが、失われてしまうものもある。こういう感覚、大切にしたい。  
東京都 大王グループ

この冬に一度も着ないセーターが海が見たいと私を誘う  
鴨川市 春木 敦子

松飾り取り払われて一月が素顔のままの一月となる  
東京都 武藤 義哉

ガチャガチャとチャンネルを回した夢の箱ぞうだテレビは板ではなかつた横濱市 森 秀人

間違つて覚えた単語をひなどりのように何度も使つてしまふ  
大阪市 吉野 夏海

古希を過ぎよを行き着ても足元は転ばぬ先の白スニーカー  
厚木市 蔵原由美子

波音に呼吸を合わせ揺らめいて君をゴールと決めた一日  
奈良市 浦城 亮祐

坂道を転がりたがってるオレンジに素敵な坂を見つけてあげよう  
守口市 小杉なんきん

## 黒瀬 珂瀾選

徹生えたチーズみたいに癖のある親友と飲む雪の夜の酒  
北名古屋市 月城 龍二

【評】ブルーチーズかな、僕も大好きです。沢山は食べられないけど、あの癖がたまらない。そんな友人と酒を飲むと、新たな視点を知らることが出来る。しみみりした冬の酒席。おきあがりこぼしは人に揺らされてされどどしどし決まる重心  
富山市 若林 千影

【評】いくら揺らされてもおきあがりこぼしはしっかりと屹立する。外からの力は柔軟に受け流し、それでも自分の芯がある。そんな風に生きていきたいものです。  
大野城市 野分 のわ

【評】良き排泄は健康の第一歩。便器にぐいっと尻を据え付ける瞬間、まさに入いませ生きる身体Vを実感するのです。  
鹿野市 椎名 昭雄

仕立て良きスーツを着たる人々が靖国神社に拝礼をする  
高崎市 安田 漢子

生きねばと闘病続けし遠き日をふぶく夜更けに覚めて思ほゆ  
青森市 安田 漢子

廟の鐘掛けて雪踏む青年僧の大き足あとあきらかとなる  
横濱市 矢沢 寿美

蜜柑山の最上段に踏ん張れる四代目の脚頼もしきかな  
熊本市 森山 昭子

わが部屋を訪いし青年ビル街の夕映えつくづく誉めてゆきたり  
小平市 栗原 良子

藪藪は亡夫にやあらむ行く路を止まりては待つ帰りに来て待つ  
神奈川県 鈴木 栄子

約束は一つ一つと消えてゆき白い景色にタンポポ探す  
姫路市 平手 礼子

◇投稿規定◇ はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名(ふりがな)、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、にほんばし 蔵前郵便局留、読売歌壇(俳)壇、〇〇先生(希望選者名)係または読売新聞オンラインから ◇毎週月曜日に掲載 右の影絵はいっぱんさんが